

Web におけるアクセシビリティとユーザビリティ

IT 機器の普及やブロードバンドをはじめとするネットワークインフラの整備により、Web は年齢や障害の有無を含めた違いに関係なく様々な人が利用するものとなってきました。それとともにアクセシビリティやユーザビリティを考慮した Web サイトの作成が求められています。

アクセシビリティとは、「アクセスの容易性」を指す言葉であり、Web を利用する際に障壁をできるだけ少なくすることにより高齢者や障害者にも利用しやすいような環境を作り上げていくことです。例えば、全盲の人が音声ブラウザを使う場合、画像や映像だけのページでは情報を得ることが難しく、アクセシビリティが高いとは言えません。

Web におけるアクセシビリティの向上を考える場合、高齢者や障害者の利用だけでなく、OS やブラウザといった環境の違いも考えなければいけません。アクセシビリティ向上のための指針はいくつか存在し、代表的なものに W3C (Web 標準化団体) が制定した WCAG1.0 (Web Content Accessibility Guidelines 1.0) があります。アメリカではリハビリテーション法 508 条でアクセシビリティの規格が制定されており、国内においても e-Japan 重点計画にアクセシビリティの確保がうたわれています。また、高齢者や障害者へ配慮した規格の制定を進めている日本工業規格 (JIS) においても今年の 6 月に Web コンテンツに関する規格が制定されました (JIS X 8341-3)。

WCAG1.0 や JIS X 8341-3 で規定されて

いる要件をもとに Web におけるアクセシビリティを向上する手法をいくつか挙げます。

- ・画像には適切な ALT 属性 (画像に代わり表示されるテキスト) をつける
- ・ページのタイトルには適切なものをつける (下図参照)
- ・色や形によって伝えられる情報は色や形に依存しない方法で情報が伝わるようにする
- ・文字の大きさは必要に応じて変更できるように相対的な単位 (% など) で指定する

アクセシビリティに対し、ユーザビリティというのは「利用しやすさ」を指す言葉として使われています。例えば、ショッピングサイトで買い物をする際に目的の商品がどのページにあるのか分からないとか、価格がどこに記載されているか分からないようなサイトはユーザビリティが高いとは言えません。いくらアクセシビリティを確保したところでユーザビリティが低ければユーザには優しくないサイトになってしまいます。

Web サイトは山のようにあり、クリック一つで他のサイトに簡単に移ることができます。アクセシビリティやユーザビリティの低いサイトは利用者離れを招き、逆に、高いサイトは高齢者や障害者だけでなく健常者にとっても見やすく使いやすいサイトであると言えます。それだけに Web サイトのデザインの重要性は非常に高いものと言えるでしょう。

参考文献

アライド・ブレインズ編：Web アクセシビリティ JIS 規格完全ガイド (2004)，日経 BP 社

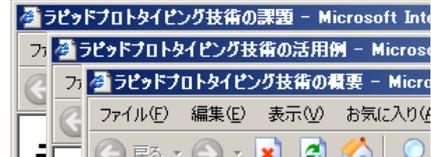
	<p>【悪い例】</p> <p>ページのタイトルは音声読み上げブラウザを利用している人には最初の手がかりとなるもの。複数のページに同じタイトルが使われているとページの区別がつきにくい。</p>
	<p>【良い例】</p> <p>ページ毎に適切なタイトルを設定することにより、そのページに書かれている内容が判断しやすくなる。これは「お気に入り」に登録する際にも TITLE タグの内容が反映される点からも良い。</p>

図 アクセシビリティ向上手法の例



工業技術部 機械電子室 浅井 徹 (tohru_asai@pref.aichi.jp)

研究テーマ：ユビキタス・ネットワークを利用したセンサ技術の開発

指導分野：CAD / CAE、情報技術